

総括 行政座談会

15会場に301人が参加



町政全般について

質問 合併した町がスタートするあたり、まず職員の意識革命から始まるのが大切であり、いろいろな計画も実行して検証していくことが大事だと思っがどうか。

回答 3町村それぞれ歴史があり、職場の雰囲気や職員の違いはあるので、良いところは引き出し悪いところは改善して、美郷町としてのもの見方・考え方ができる職員になつてもらいたいし、ならなければならないと思う。現在、行政経営プランを策定し、事務事業の進め方や組織のあり方について、どうあれば住民と組織のためになるか職員自ら議論している最中である。そうした中から職員の意識が一つになり、変わっていくものと思う。事業についての計画は毎年見直し、状況を確認しながらローリングを進めていきたい。

質問 大仙市は過疎地域に指定されているが美郷町はどうか。

回答 国勢調査の数値により5年ごとに見直され指定されるもので、本町はこれに該当しない。ちなみに旧仙南村は指定されていたが17年3月31日で期限切れとなった。

合併後初となる行政座談会が、6月20日から7月15日まで町内15会場で開催され、301人の方が参加しました。

今回の行政座談会は、平成17年度のまちづくりと今後の課題や美郷町総合計画について説明するとともに、町民の皆さんから町政に対するご意見やご要望などをお聞きして、今後のまちづくりに反映させようと開かれました。今月号では、各会場で出された主なご質問やご要望についてお答えします。

質問 現在は分庁方式だが、今後中心部に新庁舎建設などの予定はあるか。

回答 合併協議の中で、新庁舎を建設するかどうかについて合併後に検討する旨の取り決めをしている。職員数は現在の300余名を220名まで削減することを目標としているが、行政需要等を考慮しながら総合的に検討していく。

質問 合併したが集落名や市町村境が分からない。集落名を示す案内板を設置する考えはないか。集落名の看板を掲げれば住民の意識も変わるのではないか。

回答 道路管理者が道路によってそれぞれ異なり、全部を一度にとというのは無理である。優先すべき場所には既に境界を示す案内板をつけている。今後道路の100%というのは無理かもしれないが、再度調査するよう指示を出している。

質問 少子化対策が全国的な課題になつているが、町の取り組みについて教えてほしい。

回答 全方位的な施策が必要で、施策の積み重ねが大事だと思つている。

質問 人口の減少について改善方法を考えているか。

回答 特効薬はない。西洋医学的な局部的処置ではなく、東洋医学的な周辺からじっくり治療していくというような全体的な施策を講じていくことが必要と考えている。定住化を図るための住環境の整備、出生や子育て環境の条件整備のほか、私たちの次の世代がこの町に住み続けたいと思える地域づくりが必要と考えている。

要望 少子化対策など、国や地方公共団体はその施策を場当たりのしてはいないか。人そのものをいたわるような施策を盛り込んでほしい。

回答 人を思いやることは非常に大切だと思つるので配慮していく。

質問 いつ台風や大雨が発生するか分からない状況の中で、ハザードマップのようなものを考えているか。

回答 ハザードマップについては未作成である。ただし、17年度に地震、火災、水害などが発生したときにどういった対応をするかといった地域防災計画を作ることになつている。他の洪水常習地帯ではハザードマップが作成

されているが、本町の場合は大きな河川がないので、水路からあふれ出た水で床下浸水などが起きる可能性があるものの、家屋が流されるようなことはないと思われる。

施策等の統一化について

質問 行政区の統一化についてどう対処するのか。

回答 旧3町村の行政区の規模や集落の様態、行政協力員の役割やそれに対する報償費にも差異があるので、住民の意見を聞きながら組織的に見直しを図っていききたい。

質問 3町村が1つになってそれぞれ違いがあると思うし、良さも悪さもあると思うのでそれを話してほしい。また、どのように調整していくのか。

回答 地理的な条件、自然条件、社会資本の整備の条件、まちづくりの積み重ねなどそれぞれ3町村の違いはあると思う。どれが良いとか悪いとかについては見方にもよるし、長所が短所になったり、短所が長所になったりするるので難しい。しかし、一般論的な違いとして、六郷には商業地として栄えた歴史の集積があるし、千畑・仙南については農業地帯として培ってきた人の輪とか自然があるし、こういったものを大切にしていって、それぞれの違いを活かしたまちづくりが美郷町の特徴となっていくと思われる。そして、そうしたものをまとめたものが総合計画である。また、具体的にどこが良くどこが悪いかというのには言及できない。

質問 今後の課題として「類似第3セクターのあり方」とあるが、何年後を目途にどのように統一していくか。

回答 指定管理者制度が18年度から適用される。これに伴い、施設の管理を第3セクター等に委託している場合、施設の管理者を新たに公募し、管理運営全般を民間会社にかかせることができるようになった。

利用者へのサービス低下を招かないようにしなければならない反面、経費も削減していかなければならない。どのような条件でもって公募したらいいのか検討している最中である。

美郷町の第3セクターが管理している主なものとして「あったか山」「サン・アール」道の駅「湧子ちゃん」などがあるが、すぐに統一し移行できる部分とできないものがあると思われるので時間をかけて慎重に対応したい。いずれ、12月に開かれる議会の議決を経て、4月から指定管理者制度による管理運営を実施することになる。

質問 納税貯蓄組合の補助金に地域によってばらつきがあるようだが来年からどうなるのか。

回答 今後統一化していく補助金の一つである。補助を不適正とした裁判事例もあり、補助目的をはっきりさせて統一化していきたい。

福祉保健について

要望 少子高齢化の時代に突入し、行政は特に高齢者の健康対策に力点を置かなければならない。したがって、町長は常にさまざまな情報を収集して

的確なリーダーシップを発揮してほしい。

回答 高齢者対策は生きがい対策でもあり、今後、生涯学習の活動強化や老人クラブ活動を活性化させるなど、責任者として具体的な方針を総合計画の中で示していきたい。なお、皆さんから要望されてもできないこともあると思うが、今後とも協力してほしい。

意見 満65歳以上の町民に温泉の無料券が交付されているが、土曜日・日曜日に利用できず不便である。

回答 一般の方の利用が多いのは土日であり、無料者との利用が重なりお金を出した方が利用できないという悪循環になる可能性がある。介護保険の見直しが来年度あり、決まった財布の中で高齢者福祉の何を優先するかなど検討していく。

要望 温泉の無料券を町内のすべての温泉で利用できるようにしてほしい。

回答 温泉は経営でもあり、お金をもらっていないければ経営が成り立たない。ご理解いただきたい。

質問 総合健診が毎年実施されないこと聞いているが本当か。また、この事業に補助はあるか。

回答 毎年実施の予定である。また、総合健診そのものは補助事業ではないが、基本健診、骨粗しょう症健診、肝炎ウイルス健診は国庫補助3分の1、県補助3分の1の負担がある。

子育てについて

質問 子育て対策について、大仙市では小学校6年生まで医療費が無料となっている。美郷町はどうか。

回答 現段階では考えていない。今後合併効果が見え財政に見通しが立てば子育て対策について新たな施策を検討したい。今は身の丈にあった施策を実施している。

質問 男女共同参画運動などもあり、女性の勤務時間も変わり長くなってきている。そのため、帰宅時間が遅くなったりして家族で子どもを育てることにたいへん苦労している。幼保の保育時間を柔軟に対応できないか。

回答 現在、日曜日・祭日、年末年始を除いて午後7時まで保育している。今後は、夜間保育とか休日保育のニーズが高まってくることも考えられるので、そうしたニーズに照らし合わせながら対応したい。

温泉施設の利用について

要望 町内にある温泉施設の営業時間の延長と定期券の発売をしてほしい。

回答 合併前に統一を図るため現在のようにしたので、今後検討する。

また、3施設の統一したサービス向上策の1つとして共通利用券を導入した。今後、利用実績や指定管理者制度などにかんがみながら、さらなるサービスの向上を検討する。

質問 町内にある温泉施設の日曜、